第71号　2007年7月10日　　発行人　大場信秀　　編集人　湯淺慎司

道建労協機関紙

PAVE

Council of Road Construction Worker´s Unions(C.R.U)

道路建設産業労働組合協議会　〒104-8380　東京都中央区京橋1-19-11（NIPPO 労働組合内）　電話03（3563）6744
URL.http://www1.ocn.ne.jp/~cru

労使セミナー

2月13日、ホテルラングウッドにおいて第22回労使セミナーを開催した。労使セミナーは、労使が抱える共通の問題点をテーマに毎年開催しており、今年は組合側34名、企業側24名、計58名の参加で行われた。

今回は、（財）社会経済生産性本部　メンタルヘルス研究所　部長　乾智喜先生を講師に迎え「メンタルヘルスの基礎知識とリーダーの役割」と題して講演をいただいた。

最初に、統計に基づく「心の病」の現状とうつ病とは何かについて解説していただき、メンタルヘルス不調とはどんな状態で、そのときリーダーはどんな対応をすべきか、またはしてはいけないかを説明された。特にうつの人にとって、叱咤激励が返って余計に落ち込む原因となっていることについて、注意が必要であると強調された。

また、リーダーとして重要なのは、相手の感情を受け止める聴き方＝「傾聴」である。気持ちを聴くことは「共感」するということであり、そのためには、固定観念を捨てて「観る」ことが必要である。それにより、相手が「観てくれている＝わかってくれている」という感覚を持つことが信頼関係の構築に繋がっていくと力説された。

セミナー終了後の懇親会においても、引き続き乾先生にご出席いただき、セミナーでは聞くことができなかった質問等、個別に対応していただいた。

道路建設産業は厳しい経営環境に加え、労働環境に改善傾向が見られないまま、メンタル面で問題を抱える社員が増えている。今回のセミナーは、「心の病」に対する知識のみならず、そこでの対応、さらに信頼関係の重要性について充実した内容であったため、参加された方から非常に参考になったとの言葉をいただいた。今後のメンタルヘルス対策に役立てていただければ幸いである。

フリーウェイ

「雨」

北海道を除いた地域では、5月から7月にかけてジメジメとした「梅雨」の時期が必ずやってきます。なぜ「梅雨」というのかは諸説ありますが、梅の実が熟す頃にふるので「梅雨」という説が、一番趣があって良いと思います。

季節を表す言葉で雨を使ったものは、春だけとってみても「糠雨（ぬかあめ）」「軽雨（けいう）」「草の雨」などがあり、日本人は昔から雨を身近に感じ、特別な感情をもって接していたのではないかと感じます。

現場で働く皆さんも、この「雨」に対しては特別な感情を持っているのではないでしょうか。「舗装出来ねぇじゃね～か！」「出荷全部中止だよ」「路盤がぁぁぁ」雨が降れば、いたる所でそんな声が聞こえてきそうです。でもそんな時は気持ちを切り替えて、ダムが雨水を蓄えるように自分のエネルギーを充電する時間にしましょう。

山に降った「雨」は初め小さな流れですが、それが小川となり、最後は大きな川となって海へとそそぎます。組合活動も同じ、組合員一人一人の意見が集まってこそ、大きな流れを創り出し、目標にたどり着けるのです。

前田道路労働組合　條　康宏

地協のない地域の交流会

北陸地区

平成19年6月13日新潟東映ホテルにて、5単組12名、本部3名、合計15名の参加により、北陸地区交流会が開催されました。今年で3年連続の開催となりましたが、初めて参加される方も多く、交流のすそ野が広がってきていると感じました。

議題は主に労働環境、特に6月の土曜閉所強調月間を絡めた休日取得・時短問題についてでした。毎年同じ議題となっていますが、この問題は過去から続く永遠のテーマとして、避けては通れない問題だと思います。しかしながら、各単組の意見を聴いていると、少しずつですが改善されてきていると感じました。特に、協力業者も巻き込んで休日取得の働きかけを行ったり、水曜ノー残業デーの実施を2年間続けてきた結果、組合員の意識付けが出来てきたりといった具体的な取り組みや成功例は、これからの各単組の取り組みの参考になったと思います。また、36協定の重要性についても時間をかけて意見交換が行われました。

さらに地域独自の問題として、北陸地区は全国的に規模が小さいため、人員の補充が困難で、年間を通じて適正な配置ができにくいことが挙げられました。広い エリアを兼任したり、異動が頻繁に行われたりといった点から、安全や健康管理にも注意する必要があるという声も聞かれました。

会議終了後の懇親会は、できるだけ他単組の方と話ができるような席次となりましたが、最初こそ食事に執着して静かだったものの、すぐに打ち解け、お酒を注ぎつ注がれつ賑やかに盛り上がりました。最後に、来年の交流会での再会を約束してお開きとなりました。

北陸地区交流会幹事　小林平和（大成ロテック社員組合）

東北地区

平成19年6月20日三井アーバンホテル仙台にて、東北地区交流会が開催されました。当日は6単組21名、本部役員4名、合計25名が参加し、全員の自己紹介後、事務局より道建労協の活動報告が紹介され、交流会が始まりました。

討議内容は、労働環境における問題点として、土曜閉所強調月間の取り組みや長年に渡って問題となっている時短・休日所得問題について、そして、東北地方ならではの地域特有の問題について各単組の取り組みを紹介しながら、活発な意見交換が行われました。

また、今回は特に女性の参加者が多く、女性の観点から屈託のないご意見やご要望などを頂き、和やかな雰囲気の中で会は進行しました。女性同士での意見交換では、「やっぱり」とうなずける点や、参考になる点もあったのではないでしょうか。また、男性にとっても、普段何気なくやり過ごしていることに気づきを与えられた点もあったのではないかと思います。

そして、会議終了後懇親会が開催され、普段は交流のない他単組の方との意見交換や情報交換が行われ、参加者の交流を深めました。最後に、こうした交流会を継続することで、建設業の労働環境の改善および業界の発展に繋がるのではないかと感じつつ閉会となりました。

東北地区交流会幹事　蓮田秀仁（NIPPO労働組合）

中部地協　ボウリング大会・潮干狩り開催報告

5月17日（木）名古屋市内のブランズウィックスポルトにおいて、5単組6チーム、総勢30名の参加でボウリング大会を開催いたしました。

はじめに、青嶋議長の挨拶そして始球式の後開会いたしました。

皆さん日頃の業務を忘れ、ボウリングを楽しまれたことと思います。

ゲーム終了後に立食パーティー形式での表彰式及び懇親会を行いました。結果は団体の部は全大有労組、男子の部は全大有労組の小椋さん、女子の部は東亜道路労組の寺田さんが優勝という結果となり、盛会のうちにボウリング大会が終了しました。

その3日後の5月20日（日）には愛知県上野間海岸において、恒例の潮干狩りを建設連合愛知さん、UFJニコス労組さんとの共催で開催しました。

参加された総勢720名の皆さんとともに、今年は（例年の雨ではなく）強風と戦いながらの潮干狩りとなりました。魚のつかみ取り、潮干狩り、貝汁、酒蒸し、各単組主催のバーベキューと皆さんに楽しんでいただきました。

以上で、中部地協の行事開催の報告とさせていただきます。

道建労協中部地協　事務局長　小嶌　剛

単組代表者会議

6月6日、八重洲倶楽部において単組代表者会議を9単組16名の参加により開催した。

単組代表者会議は年2回開催しており、各単組本部三役を中心に1～2名ずつ参加し、加盟単組の活動状況や取り組みについて広く情報交換を行う場である。今回は、昨年の10月10日に続いての開催となった。

毎回テーマを決めて情報交換を行っているが、今回は「メンタルヘルスの取り組み」「春闘付帯要求（制度要求）について」の2つのテーマについて討議した。

労使セミナー（1ページ参照）のテーマが「メンタルヘルスの基礎知識とリーダーの役割」であったことからわかるように、「メンタルヘルス」は労使共通の重要課題である。その対策には各単組各様の取り組みが行われているが、参考となる点も多く、質疑が各単組の取り組みの細かな内容にまで及び、深く掘り下げた意見交換となった。

また、労働環境の改善が儘ならない中で、会社側に制度要求を行うことによって少しでも労働条件を良くしていきたいとの考えから、各単組が今春闘においてどんな制度要求を行ったのか、今後どんな制度要求を行いたいのか意見を出し合った。各単組とも様々な視点から制度要求を考えており、自単組だけでは及ばない発想も得ることが出来たのではないかと思われる。

各単組の代表者が集まる会議だけあって、非常に活発な意見交換が行われた。3時間を予定していた会議はあっという間に終了の時刻となった。

第22回定期大会・単組支援セミナー開催のお知らせ

道建労協の定期大会及び単組支援セミナーを下記の通り開催します。
各単組代表の代議員の皆様による活発な意見・討議を期待しております。
また、単組支援セミナーは、各単組代表たる皆様の今後に必ず役立つものと思います。皆様のご出席をお待ちしております。

記

日　時：2007年7月23日（月）　　定　期　大　会　　13:30～16:00
　　単組支援セミナー　16:00～17:30
場　所：ホテルラングウッド　〒116-0014　東京都荒川区東日暮里5-50-5

単組支援セミナー

テーマ：「職場におけるリーダーシップの在り方について」
講　師：アースシップ・コンサルティング　　松山　淳　先生

土曜閉所推進運動アンケート調査のお願い

道建労協は、「モノづくりを通じて社会に貢献し、魅力ある道路建設産業を実現する」ことを基本理念として、働きがいのある職場の環境づくりと豊かな生活を目指しております。

その一環として、毎年「土曜閉所推進運動」に取り組んでおります。特に、6月及び11月を「強調月間」と位置づけ、加盟単組各社及び道路建設産業関係機関に対し協力をお願いするとともに、ポスター配布を通じて組合員への浸透を図っております。

その取り組みの実態調査として「土曜閉所推進運動アンケート」を行います。当アンケートの結果は、次回11月の「強調月間」の取り組みにあたって、企業及び関係機関を訪問する際の説明資料となると同時に、今後の改善に向けての指標となるものです。

従いまして、本アンケートは、道建労協の活動において大変重要な意味を持っております。皆様のご協力をお願い致します。

物知りクイズ

今年も半年を過ぎ、早くも7月に入りました。
梅雨の鬱陶しさに気分がもやもやする反面、晴れた夜には「ビアガーデンで一杯」が最高の季節になってきました。
今回はそんな7月に生まれた有名人にスポットを当ててみましょう。

Q1 子供の頃に憧れたレスラーといえば、何と言ってもミル・マスカラス（7月15日生まれ）でしょう。「スカイ・ハイ」のテーマ曲に乗ってロープを飛び越え、颯爽と入場するシーンを学校の鉄棒を使って真似した人も多いのではないでしょうか。いまだ現役のミル・マスカラス、ファンからは何と呼ばれていたのでしょうか？

1. 千の顔を持つ男　2. 狂乱の貴公子　3. 白覆面の魔王　4. 人間風車

Q2 オリンピックは多くのドラマとともに、多くの名言も生んでいます。1992年バルセロナ大会の200m平泳ぎで優勝した、当時14歳の岩崎恭子（7月21日生まれ）が優勝インタビューで言った一言とは？

1. 「気持ちいい！超気持ちいい！」
2. 「初めて自分で自分をほめたいと思います」
3. 「今まで生きてきた中でいちばん幸せです」
4. 「最高でも金、最低でも金」

Q3 オールドファンには懐かしい、「牛若丸」こと吉田義男（7月26日生まれ）。監督としても、1985年に阪神タイガースを21年ぶりの優勝に導くなど輝かしい実績を残しながら、野球の後進国に行って野球の振興に一役買い、その国のナショナルチームの監督にまでなりました。その国とは一体どこでしょうか？

1. イギリス　2. フランス　3. オランダ　4. オーストラリア

Q4 ズバリ、ビートルズのメンバーで7月生まれは誰？

1. ジョン・レノン　2. ジョージ・ハリスン　3. リンゴ・スター
4. ポール・マッカートニー

物知りクイズ当選者

PAVE第70号「物知りクイズ」は、「冬のスポーツ」に関するクイズを出題しました。スポーツと言えば、6月16日の沖縄大会をトップに各地で高校野球予選が開幕しています。「ハンカチ王子」に続き、今年はどんな王子が誕生するのでしょうか？楽しみですね。

全問正解者多数につき、抽選で当選者を決定させていただきました。当選者の方々には粗品をお送りします。ご応募ありがとうございました。

前回の答え

Q1　③ ジャネット・リン　Q3　② レゲエ
Q2　② エリス少年　Q4　③ 33km

当選者

叶内　英二	（大成ロテック社員組合）
過足　典子	（大成ロテック社員組合）
今野　曜子	（東亜道路労働組合）
河西　誠	（東亜道路労働組合）
池西　幸男	（NIPPO労働組合）
平塚　昌一	（NIPPO労働組合）
安河内俊之	（フジタ道路職員組合）
高桑　友紀	（前田道路労働組合）
高橋　明子	（前田道路労働組合）
西尾　悟	（三井住建道路労働組合）

（敬称略）

これからも物知りクイズをよろしくお願いします。

〈応募方法〉下記を明記してお送りください。正解者の中から抽選で粗品をお送りします。たくさんのご応募をお待ちしております。

●解答　●住所（会社宛の場合は会社名もご記入ください）
●氏名　●所属単組名
●今回の紙面でよかった点、気づいた点がありましたらご意見も是非お寄せください。
●締め切り　7／31（火）
●宛先　〒141-8665
東京都品川区大崎1-13-3　前田道路労働組合内
道路建設産業労働組合協議会『PAVE』宛
FAX 03-5487-0051
E-mail:kumiai@maedaroad.co.jp

※次号は9月発行の予定です。

編・集・後・記

今年のプロ野球も交流戦が終わり、いよいよ後半戦に突入しましたが、今年からセパ両リーグでプレーオフが行われます。

でも私的にはこのプレーオフには「？」って感じです。

昨今の低迷する野球人気を打破しようと米大リーグに倣って導入したようですが、そもそもチーム数が全然違うし、やる意味あるの？？？何年か前のソフトバンクの様に長いシーズン頑張っても、プレーオフの数試合でひっくり返されるのは、選手もファンも納得できないよ！と思いながらも今年に限っては、低迷する我がタイガースの救世主となるかも知れないので複雑です（早い話、阪神が日本一になれば結果オーライなんですけど）

それともうひとつ。ハンカチ王子を見たさにルールも知らないおば様たちが球場に足を運んでますが、地図見てもwhere is korea? っておば様たちが「ヨン様～～」と追っかけしてたかつてのブームに重なって見えるのは私だけ？

三井住建道路労働組合　副書記長　静　正人